Does staged surgical training for minimally invasive esophagectomy have an impact on short-term outcomes?

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石山, 廣志朗 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002839

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2552 号

Does staged surgical training for minimally invasive esophagectomy have an impact on short-term outcomes?

段階的な手術トレーニングは低侵襲食道切除術の短期成績に影響を与えるか？

石山 廣志朗（いしやま　こうしろう）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、高難度かつ高侵襲とされる食道癌手術において、修練医が執刀に関与した低侵襲食道切除術（MIE)を指導医と比較した論文である。先行研究では開胸食道切除術において修練医と指導医とを比較した報告はあるが、MIE において両者を比較した報告はない。本研究では、MIE における手術トレーニングシステムを習得した修練医と指導医の周術期成績を比較検討した。患者背景では指導医に StageIII 以上の進行癌が多く（指導医群 52% vs 修錬医群 36%, P=0.003)、修練医に早期癌が多く、術者の技量に応じて適切に症例が割り振られていた。また胸部手術時間は修練医で長く（指導医群 143±34 分 vs 修錬医群 190±28 分 P<0.001)、出血量も修練医で多い傾向にあったが（指導医群 93ml vs 修錬医群 183ml P<0.001)、肺炎・縫合不全に差はみとめなかった（肺炎：11% vs 18%, 縫合不全：11% vs 13%)。よって本研究から、標準化された段階的な手術トレーニングを習得することで、修練医が執刀した MIE は、短期成績に負の影響を与えないことを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。